

「今日の診断指針」 第4版

住友病院院長・京都大学名誉教授 亀山 正邦
東急病院顧問 亀田 治男
自治医科大学学長 高久 史磨
慶應義塾大学名誉教授・聖路加国際病院臨床医学教育顧問 阿部 令彦

編集

沖縄県立中部病院

宮 城 征四郎

3年ごとの改訂を目標にしている「今日の診断指針」であるが、第4版を上梓するのにこの度は5年の歳月を要したという。

ひもといてみて、その重厚な内容に長年月を要したのもむべなるかなの感が深い。

大きく「症候編」と「疾患編」とに分かれる本書は、更に、それぞれに多数の大項目を擁しており、各編集責任者ならびに執筆者を原則として総入れ替えを計ったというのであるから、まずもって編集者や執筆者の人選だけでも骨の折れる作業であったに違いない。

症候編 184 項目、疾患編 634 項目に 10,000 種類の疾患が網羅されている。

その執筆陣に第一線の若手の有能な臨床家を厳選したとあってはなおさらのことである。

日進月歩する医学の最先端の知識や技術を網羅するということは並大抵のことではない。

臨床医学における今日の真実は明日の虚偽となり、今日の虚偽は明日の真実になりかねない時代である。

かつては大学図書館に依存していた文献検索も、今では Medline やインターネットを通じて極めて容易となり、世界のあらゆる文献に目を通すことは臨床現場がどこであろうと何の苦労も困難も伴わなくなった。

しかし逆に、氾濫する情報洪水の中で、記述されている文献上の内容が未来永劫、真実として生き残るのは一体、いかほどあるであろうか？

唯一、それを的確に匂いで嗅ぎ分けることができるのがまさに医療現場で呻吟しつつ、ここに執筆陣として厳選された第一線で活躍中の臨床家なのである。

症候編と疾患編で編集方針に多少の差異が認められるものの、総じて各編、各項目とも緊急時の対応と、簡単な解説、診断のチェックポイント、検査の組み立て方と所見の見

方、疾患の頻度、鑑別のポイント、確定診断のポイントなどの順で記載されている。外科系疾患や症候については緊急手術の適応、内科系については“どうしても診断がつかないときに試みること”や“更に知っておくと役立つこと”などが第一線の臨床家ならではのポイント形式で記述され、これらが一般臨床家にとって、特に興味深くかつ有用である。

また、忙しい臨床家向けに図表や写真、画像などをふんだんに盛り込んであり、一々文字を追わなくともいち早く理解できるように編集されている点も本書の利点であろう。

すべての臨床家にぜひ本書を活用されるようお勧めしたい。

- デスク判 B5 頁2000 図282 写真840 カラー写真425 原色図5 表721 1997 定価(本体23,000円+税) 700
- ポケット判 B6 定価(本体18,000円+税) 400

医学書院 刊(☎03-3817-5657)